



一般財団法人
工業所有権協力センター
Industrial Property Cooperation Center

専門技術者(主席部員)採用

調査業務センター長からのメッセージ

調査業務センター長・専務理事

岩崎 晋



自分の経験・能力を生かせる「場」。
私たちには、その「場」があります。

一般財団法人工業所有権協力センター（IPCC）は、1985年の設立以来、あらゆる技術分野をカバーするプロフェッショナル集団として、特許庁における特許審査に不可欠な先行技術調査や特許出願への分類付与を行ってきました。

特許分類の付与は、毎年数十万件出願される特許情報を調べやすく、また分析しやすくするために必要不可欠な仕事であり、高品質な先行技術調査の源です。私たちは、特許分類付与を行う唯一の登録調査機関として、4,000万件超の実績を積み上げてきました。

私たちが誇る高品質な調査は、この分類付与の経験と、特許庁審査官との日々のやり取りによって鍛え上げられたものであり、その実績は、400万件を超えています。今では、先行技術調査の顧客は特許庁だけではありません。企業や

大学、研究機関、特許事務所等多くの顧客から、特許出願前の調査から他社特許に関する調査まで様々な依頼を頂いており、IPCCに対する期待と果たすべき責務は、ますます大きくなってきています。

特許庁における特許審査の品質向上への寄与をはじめとする私たちの貢献は、日本の特許制度を支え、日本の研究開発・イノベーションの創出を支援しています。この私たちの仕事を支えているのは、「人」です。IPCCでは、数百を超える企業や研究機関等において最前線で活躍してきた約1,000人越えの技術者たちが、その経験・能力を生かして活躍しています。

特許や知的財産に直接かかわったことがない方でも心配は要りません。特許調査のプロフェッショナルとして活躍していただけるよう手厚いサポート体制をご用意しています。また、在宅勤務やフレックス制度、子育てや介護のための時短勤務制度など、多様な働き方に対応した環境整備を推進しています。雇用上限は一応67歳としていますが、健康を維持し、顧客からの評価の高い方であれば、70歳を超えても働き続けられる仕組みも設けており、志高い技術者の皆様が長く活躍できる環境を整えています。

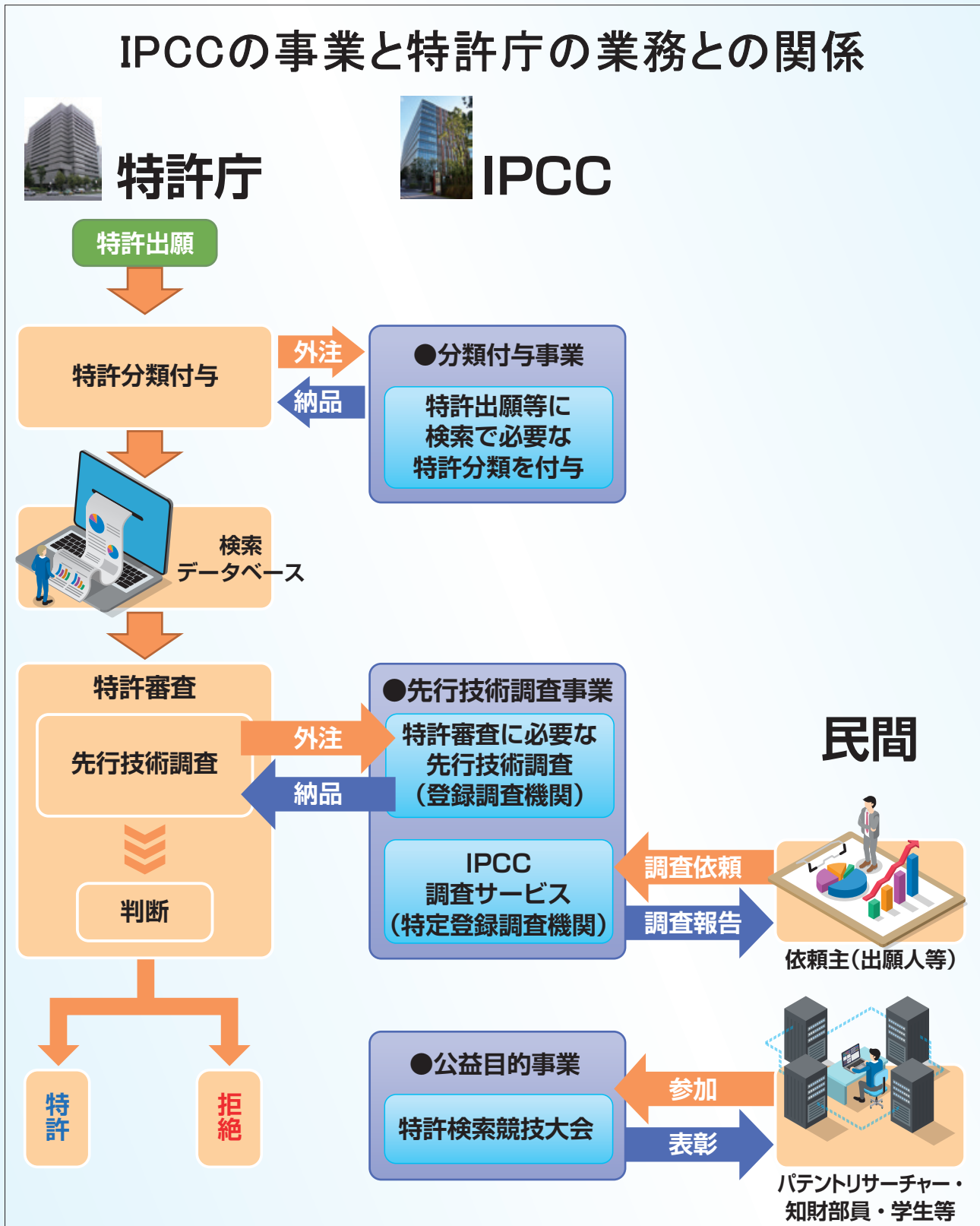
技術者の皆さん、これまでご自身が培われてきた経験・能力を、日本の知的財産立国への貢献という誇り高い仕事に賭けてみませんか？この仕事には、その価値があります。IPCCは、意欲にあふれる技術者を求めています。そして、その挑戦を受け止める「場」が、ここにはあります。

目次

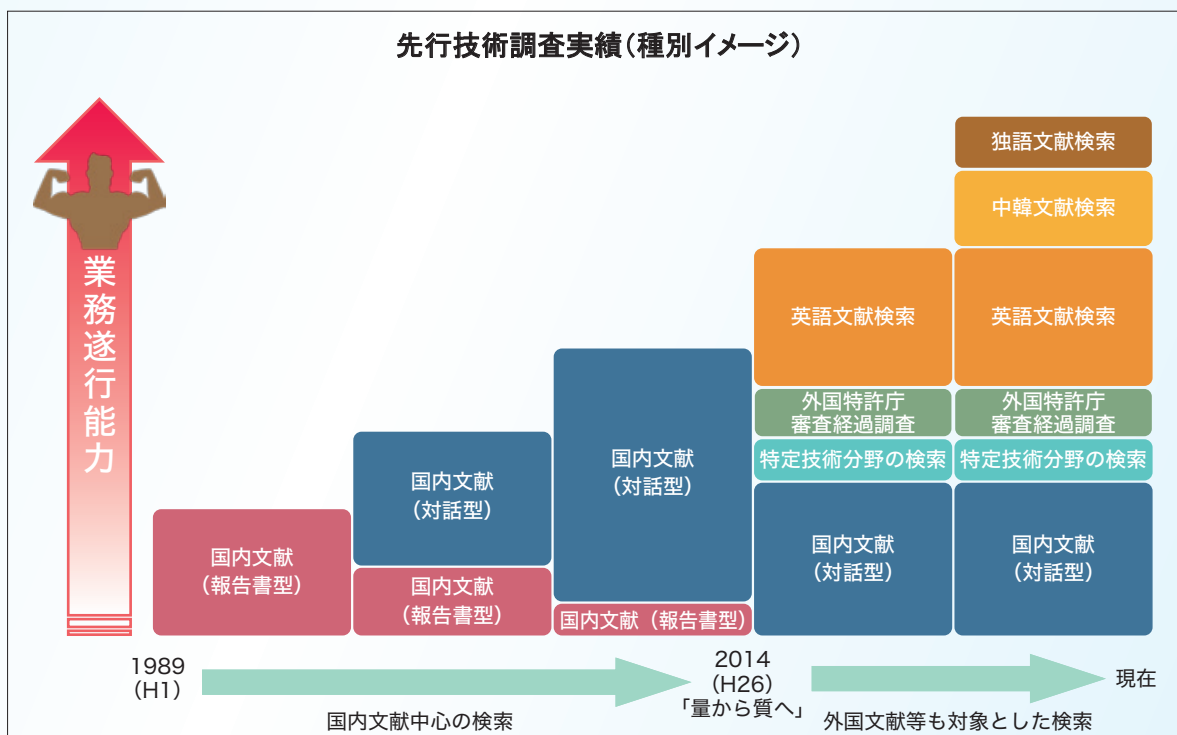
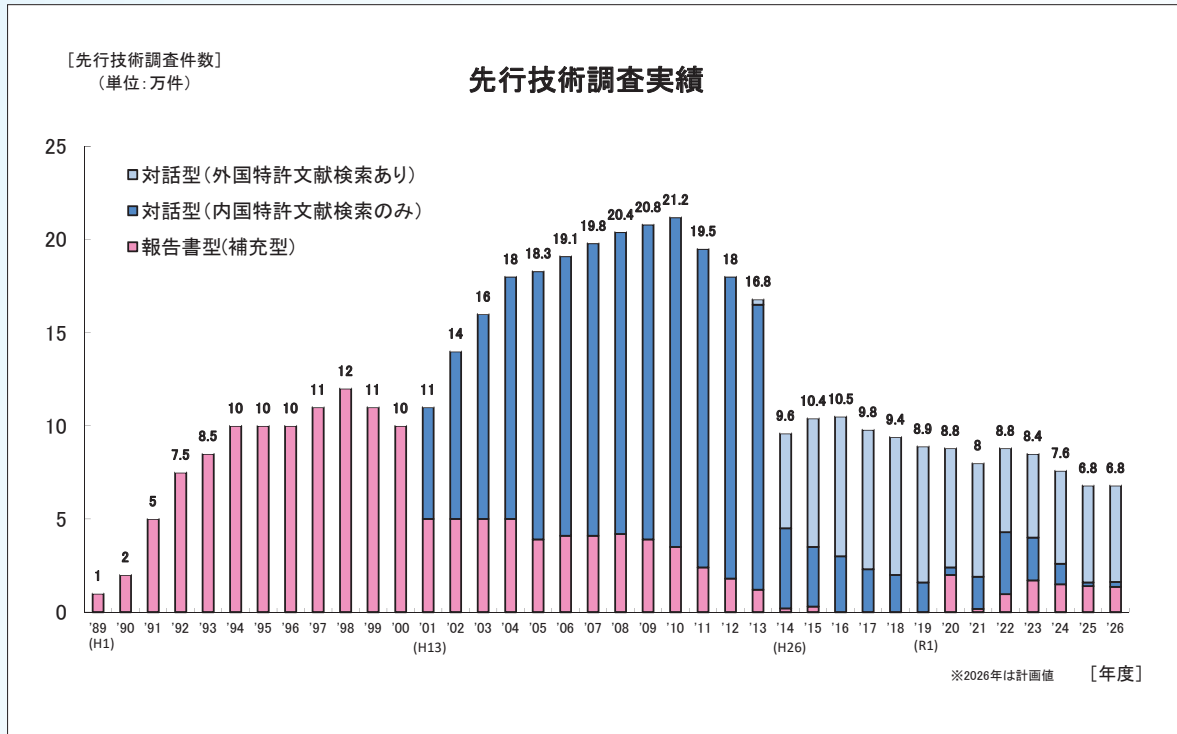
1. IPCC の業務	03
2. 組織	05
3. 人員、主席部員の業務	06
4. 先行技術調査業務の概要	07
5. 魅力を知る.....	08
6. 1 日を知る.....	13
7. 先輩を知る.....	14
8. 採用までの流れ	20
9. よくある質問	22

事業内容

■IPCCの主たる事業としては、先行技術調査事業、分類付与事業、公益目的事業です。

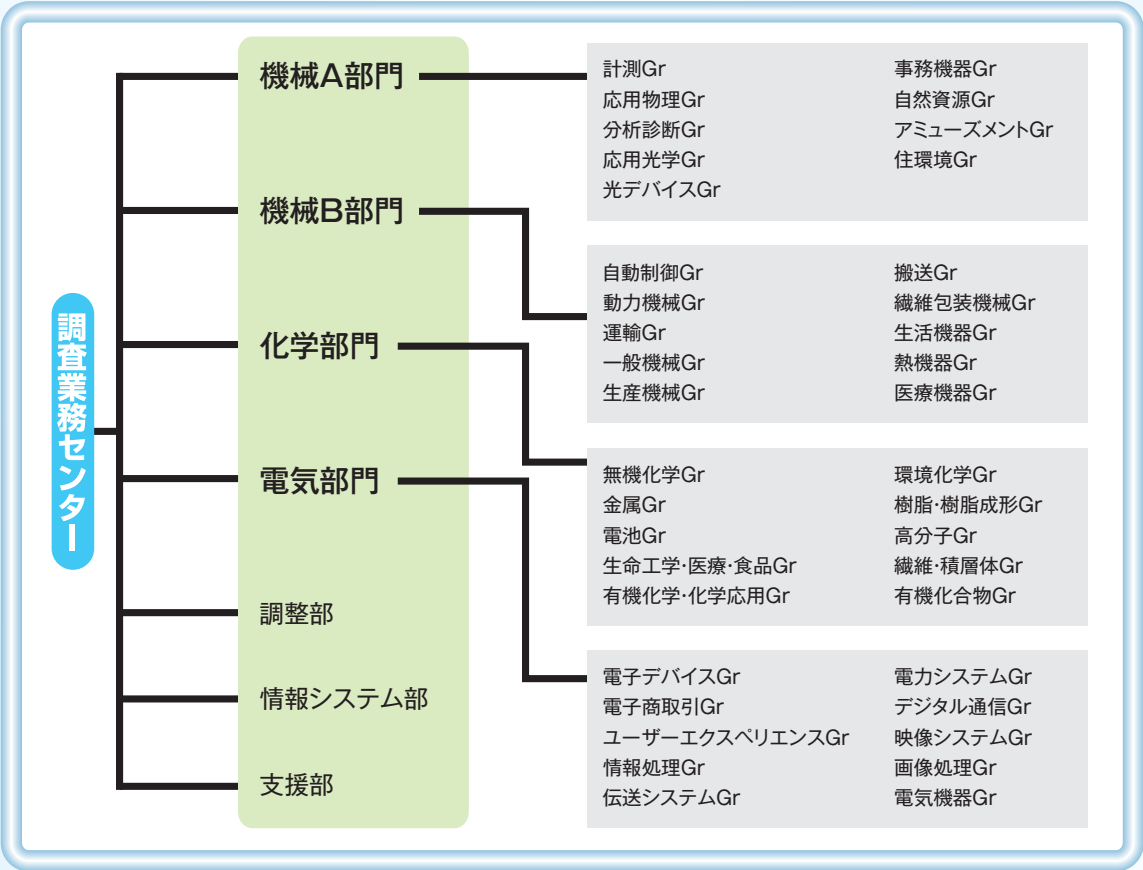
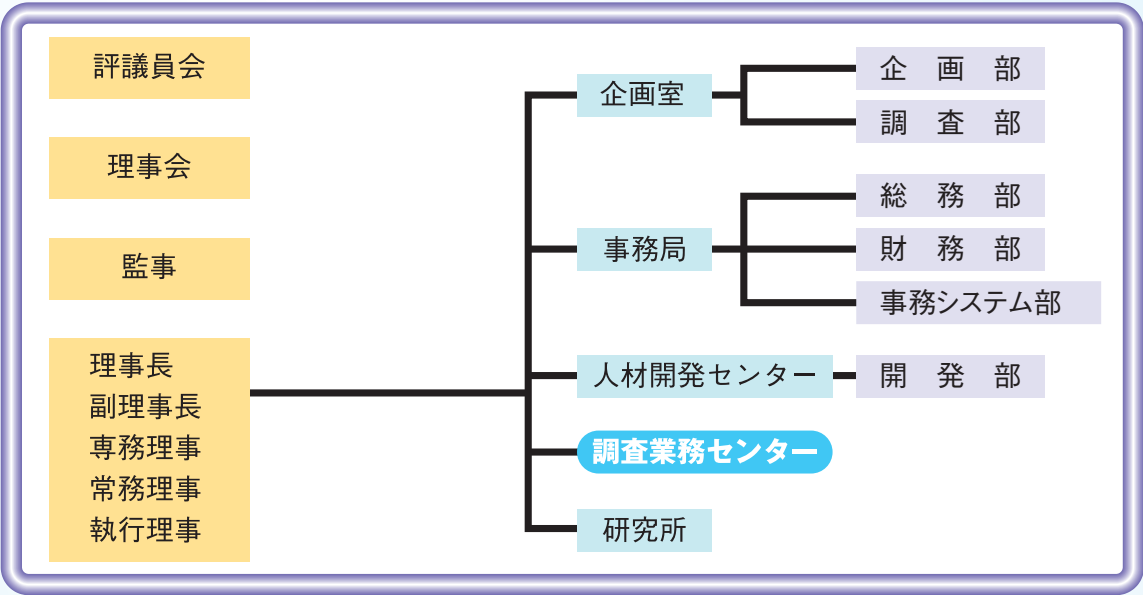


業務実績

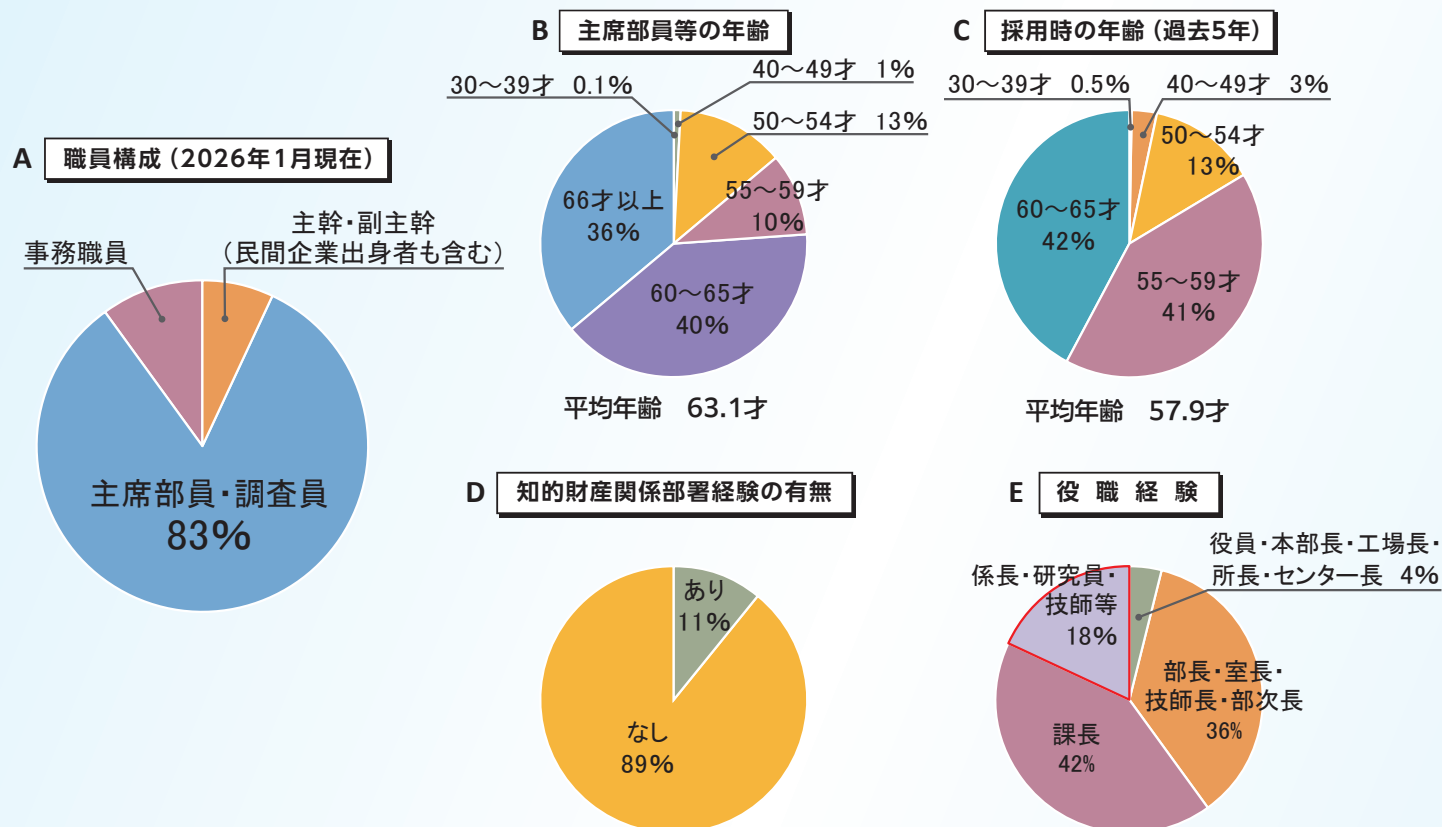


組織

- IPCCは、特許庁と類似する組織構成となっています。
- 調査業務センターでは、39の技術分野ごとのグループに分かれて業務を行っています。



人 員



主席部員の業務

■ 業務量の内訳は先行技術調査業務が約8～9割、分類付与等の業務が約1～2割です。

●特許庁審査官業務の直接支援



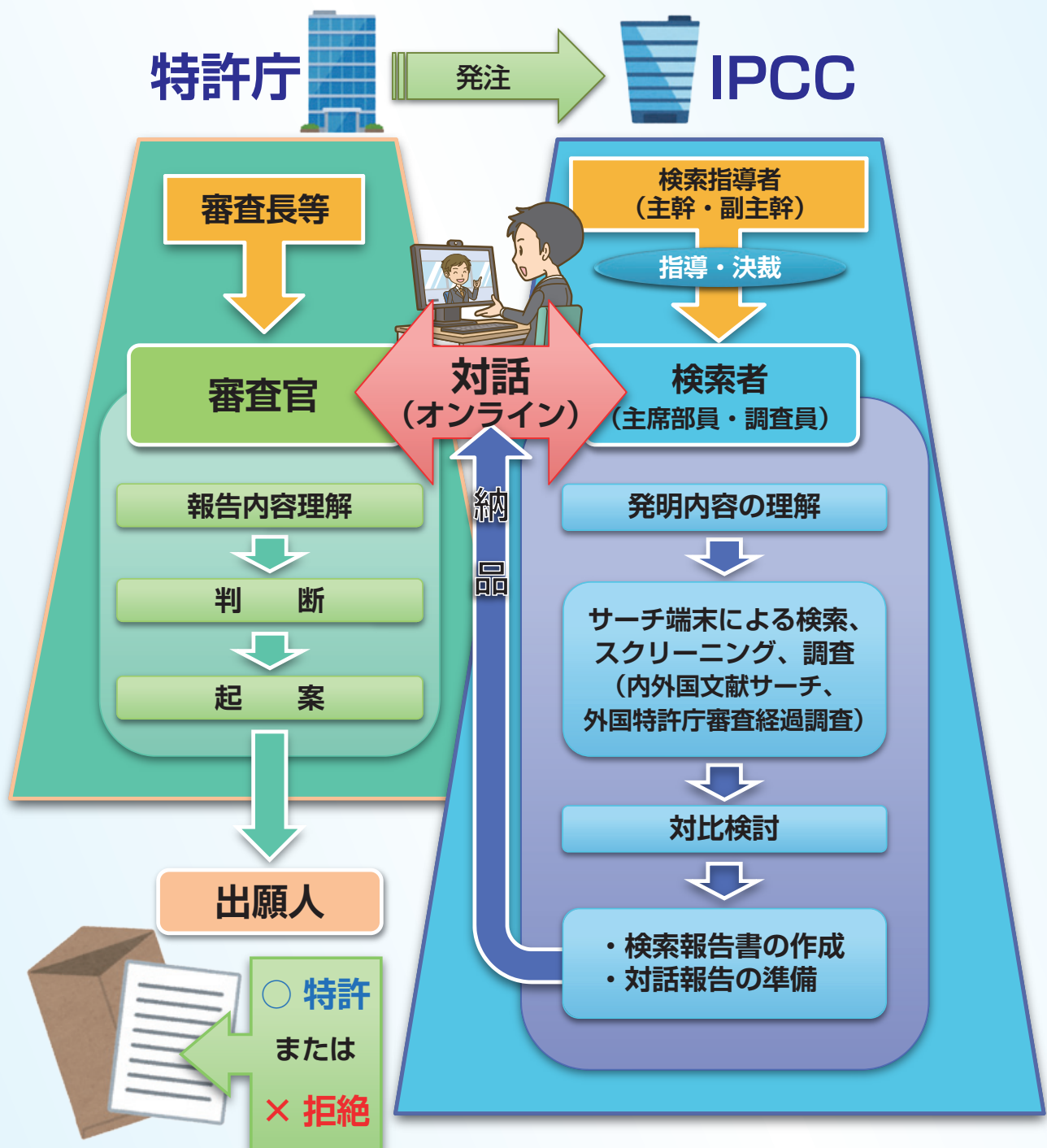
●特許庁審査官 (検索) 業務の環境整備



●出願人等の先行技術調査の支援

先行技術調査業務の概要

- 先行技術調査の結果は、審査官による特許性の判断のための重要な手がかりです。
- 検索報告書は、特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）を通じて全ての人に参照可能となります。
- 技術分野や習熟度等により異なりますが、月に4～10件程度、調査・報告をします。



ワークライフバランスのとれた充実した職場 IPCC

◇ 今までの技術・研究開発の経験を生かすことができる

IPCCでは、今までの企業、大学研究機関等での技術・研究開発又は特許庁、特許事務所、調査会社等での特許調査に関する経験を生かし、新しいことにチャレンジする意欲のある方を歓迎します。

なお、IPCCに入団する主席部員のうち、9割近い人が知的財産関係部署での経験がありません。知的財産関係の知識については、育成研修をはじめ、各種研修を通して、身に付けていただきます。そして、育成研修修了後はそれらの知識・経験を活用して長く業務を続けていくことができます。

◇ 70 歳を超えても働くことができる

主席部員の平均年齢は63.1歳（2026年1月現在）です。65歳以上の方も数多く活躍しています。IPCCに採用される主席部員は、嘱託員として、まず67歳を上限に雇用します。さらに、業務量の状況にもよりますが、健康面・勤務面等に問題がなく成績良好で働く意欲のある方であれば、70歳を超えても働くことができます。

なお、企業からの出向職員としてIPCCに採用された主席部員は、出向元企業を退職した後、一定の条件を満たせば、IPCCの直接雇用に移ります。

また、嘱託員（3年目）の年収は、約698万円（基本的な業務量を遂行した場合）です。

◇ 社会に大いに貢献する仕事ができる

IPCCの仕事は、直接社会に貢献できる業務です。主席部員の行う先行技術調査は、特許権の付与に大きく影響します。ひいては、企業の知財戦略や経営戦略、さらには我が国の産業の発展にも影響するといっても過言ではありません。なお、作成した検索報告書は、特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）を通じて、重要な知財情報として全世界からアクセスされることになります。

◇ 常に最新の技術に接することができる

IPCCでは特許庁に出願された発明と日々、向きあっておりますので、担当技術分野の最新の技術に接することができます。

◇ 副主幹さらに主幹（管理職）への登用

業務実績や適性等に応じて、副主幹さらには主幹（管理職）への登用制度があります。

◇ 各人の状況に合わせた勤務形態

入団3年目以降になると各人の状況に応じた業務量の増減が可能です。

勤務時間はフレックスタイム制（コアタイム10：00～15：00）を導入しております。

また、在宅勤務制度もあり、習熟された方であれば在宅勤務制度により一部の業務を除き、在宅で行うこともできます。

68歳以降等の方に適用される調査員制度では、勤務日数の選択（月15日、月10日）も可能です。

通勤手当は月額上限100,000円が支給されるため、要件を満たせば新幹線通勤も可能です。

単身赴任手当は、距離に応じて支給（例：大阪、京都、神戸 月額66,500円）されるため、遠方からの単身赴任者も数多く勤務しており、家賃補助は、賃貸借契約を結んでいる方について、月額上限50,000円が支給されます。（ただし、調査員は条件が異なります）

このように、通勤、育児、介護等の各人の状況に合わせた勤務形態・処遇制度になっております。（ただし、出向者は出向規程によります）

◇ 手厚い指導・研修体制

IPCCに採用された主席部員が、特許庁から受注する調査業務を行うためには（独）工業所有権情報・研修館（INPIT）が実施する「調査業務実施者育成研修」（約2カ月間）を修了する必要があります。

IPCCでは上記研修を入団後すぐに受講していただきます。なお、研修中給与も支払われますし、研修受講費用についてもIPCCが負担します。

また、IPCC独自の手厚く充実した研修も実施して育成研修修了をサポートし、財団受講生全員が修了できるようにしています。

加えて、主席部員のスキルを向上させる研修等を随時実施し、各人の能力向上を常に図っています。

◇ 全技術分野に対応した業界 No.1 の登録調査機関

IPCCは、1985年に工業所有権に関連する調査を行う機関として我が国で最初に設立されました。

2004年からは登録調査機関（第1号）として全技術分野の調査業務を毎年継続的に行っており、現在も最大のシェアを占めています。そのため、過去の技術経験から最適な技術分野を安定して担当いただけます。

なお、入団後、一定期間経過後に担当可能分野を拡大するため、関連する技術分野の研修受講を推進しています。

◇ 充実した業務支援体制



業務支援メンバー

IPCCでは、主席部員が様々な業務を円滑におこなえるよう、各部門内に業務支援部員を配置し、検索報告書チェック、執務環境の整備、業務上必要な技術専門書の購入管理等を行っています。

また、パソコン操作に関するヘルプデスクも常時開設しています。

さらに、新規入団された方が、配属された部門の業務に早期に慣れ親しんでいただくためのサポートも充実しています。

◇ 安全で整備された職場環境



執務室内風景



オンライン対話室

IPCCでは、特許庁の審査官が用いている機器と同様の機器を用いています。また、座席間のパーティションの設置もしています。加えて、IPCC独自の検索報告書作成や、分類付与の業務を効率化するための多数のソフトを用意しています。

また、特許庁審査官と対話をするためのオンライン対話室も設置しています。

◇ 安心できる健康管理

IPCCでは産業医が常駐する健康管理室を設置しており、内科一般の健康相談やメンタルヘルス相談を実施しています。また、ご自身が利用する医療機関とのオンライン診療の受診等を行うためのオンライン診療スペースも利用できます。

また、毎年、X線直接撮影、心電図、エコー検査等、約25項目もの定期健康診断及び業務の特殊性を考慮した精密なVDT検査を実施しています。

さらに、オフィス内でヘルスキーパーによるマッサージをいつでも安価に受けられる体制を整えています。

その他、インフルエンザ予防接種費用の補助や財団内での新型コロナウイルス感染予防、感染拡大防止のため、各種対策を実施しています。



健康管理室



マッサージ室

◇ 多種多様なクラブ活動

IPCCでは職員の親睦や心身の健康維持を図るため、数多くのクラブが活動しています。



1. テニス同好会



2. 健歩会



3. 野球同好会



4. 楽走会



5. スキークラブ



6. 太極拳同好会



7. フットサル同好会



8. 山楽会



9. 健康増進くらぶ



10. 卓球同好会



11. 水泳同好会



12. 自転車同好会



13. 楽碁会



14. 将棋倶楽部



15. ブリッジ同好会



16. ダーツクラブ



17. 釣友会



18. パソコン同好会



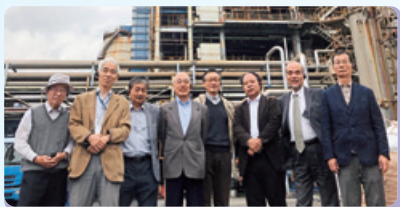
19. ハムクラブ



20. 楽理会



21. マジッククラブ



22. ものづくり工場見学同好会



23. ソバリエ倶楽部



24. 楽謡会



25. カンナ俳句会



26. 楽書会



27. 遊画会



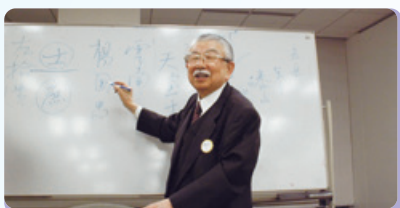
28. 写真倶楽部



29. 吟遊会



30. 陶芸倶楽部



31. 漢詩同好会



32. アタゴスピリッツバンド



33. 合唱団



34. 弦楽アンサンブル



35. 尺八同好会



36. 楽英会



37. 中文同好会



38. ロマンス語同好会

◆出勤 9:15 ～

最寄りの東京メトロ東西線木場駅の1つ手前の門前仲町駅で降りて昼食のお弁当を購入。オフィスまで健康維持のため、歩いて出勤します。



◆文献検索・精読 9:20 ～

検索案件の精読と検索を行います。

文献の読み込みには集中力が必要です。周りの席の人たちも集中して取り組んでいるため、とても静かな環境で仕事を進められます。

検索業務の合間に、分類付与を行う事もあります。



◆お昼休み (60 分) 12:00 ～

出勤時に購入したお弁当でランチタイム。新鮮なお魚をメインとしたお弁当で、午後の仕事にも力が入ります。(オフィス内でも栄養バランスの取れたおいしいお弁当が販売されています。)



◆特許庁とのオンライン対話 13:00 ～

審査官への報告は、相手が理解しているか確認しながら、本願と引用文献の対比ポイントを要領よく説明するように心掛けています。

対話では、審査官との信頼関係がとても重要です。



◆ラジオ体操 15:00 ～

定時に館内放送で流れるラジオ体操で心身ともにリフレッシュしています。



◆文献検索・精読・指導 15:10 ～

案件毎に納品目安日が設定されており、スケジュール管理はとても重要です。そこで疑問点等がある場合には、主幹に相談して早めに解決するようにします。



◆同好会活動 18:00 ～

夕方からは同好会の仲間と楽しく太極拳。

中国伝統武術を身につけ、いつまでも若い身体と頭脳を維持するよう努めています。



新たな分野への挑戦とワークライフバランス充実



機械B部門 生活機器グループ

T.S.

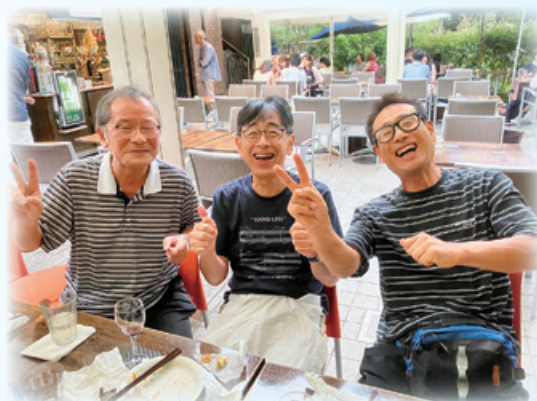
(2015年10月入団／電気メーカー出身)

新たな分野へのチャレンジ

IPCCへの転職を考える際、前職の映像関係の専門を直接生かせる分野は見当たりませんでした。IPCCはチャレンジ精神のある応募者にも広く門戸を開いていて、前職での知識も活かせる生活機器グループを紹介してもらい、無事入団することができました。新たな分野での調査業務は、いろいろと苦労もありましたが、他方で、日々新たな技術に触れて知的好奇心をくすぐられる日々はとても刺激的であるとともに、知識の拡がりを通じて成長を感じることができました。そのようにして年月を重ねるうちに、いつの間にかベテラン主席部員の一員となっていました。

ワークライフバランスの充実

仕事の面では、IPCCで最年長の主席部員となることを目標に頑張っています。そのため、新たな分野に挑戦するとともに、品質面でも劣ることがないようにして、グループへの貢献に努めています。また、プライベートでは、週末や終業後に、テニスで汗を流すとともに、その後の懇親会でテニス同好会の会員との交流を深めています。プライベートが充実することで、仕事にもより前向きに取り組んでいます。仕事とプライベートとの切り替えがコントロールし易いIPCCの環境は素晴らしいと感じています。人生を長く満喫するための職場として、私はIPCCへ入団してよかったと思っています。



在宅勤務をバランスよく活用して疲労も軽減



化学部門 有機化合物グループ

M.O.

(2022年1月入団／製薬メーカー出身)

転職における IPCC との不思議な「縁」

大手製薬メーカーで長年研究に従事後、同業他社を経て50代半ばで転職。当時は特許検索の専門職を知りませんでしたが、研究キャリアを活かせると考えIPCCに応募しました。未知の分野への不安はあったものの、入団すると元同僚や先輩も在籍しており、研究経験を繋ぐ不思議な「縁」を実感しています。

入団後の仕事の立ち上げ

入団直後、2ヶ月間の育成研修を必死に受講し修了しました。当初は試行錯誤の連続で不安もありましたが、3年目には業務の感覚を掴み自信が湧きました。現在は4年目となり、宝探しのような特許文献検索に達成感を、審査に貢献する仕事に充実感を得ています。また、特許文献を通じていろいろな発明者の考え方を理解するようになったことで、研究職時代よりも視野が広がったように感じます。

ワークライフバランスの充実

IPCCでは在宅勤務の拡大が進んでおり、現在は週在宅2日・出勤3日のペースでバランス良く働いています。長距離通勤の負担が減り、疲労を溜めずに業務に励める一方、出勤日は同僚との情報共有や気分転換の貴重な機会です。また、業務後は同好会のバンドでギターを担当するなど、私生活も充実しています。仕事もプライベートも全力で楽しめる環境に身を置き、IPCCに転職して本当に良かったと実感しています。



業務に全力を向けられる環境です



電気部門 ユーザーエクスペリエンスグループ

M.O.

(2015年7月入団／総合電機メーカー出身)

調査業務をするなら IPCC

調査業務をするならIPCCがベストだと思います。登録調査機関の中で一番大きな組織ですし、同じ技術区分の人がたくさんいるので、さまざまな情報交換ができます。独自の検索ツールやオンライン対話専用ルーム、優秀な業務支援スタッフなど、すべてが整っているので業務以外のストレスがありません。業務に全力を向けられます。

ほどよい距離感、良いリフレッシュ

所属グループ内では若手の主席部員同士でランチ会を定期的に行っています。審査官の情報を共有したり担当する案件について相談したりして、いい距離感を保っています。また、月1回の女子会があり、異なる分野の女性主席部員同士がリフレッシュの場として非常に有効に活用しています。



柔軟性と謙虚な姿勢を大切に

調査業務には、人生後半における「自分のあり方」を整えてくれる側面があると思います。集中するためには頭のスイッチをうまく切り替えなければなりませんし、長くこの仕事を続けるためには健康にも気を遣うようになります。計画的に仕事を進めるためには、問題を早めに判断し、ときには周囲に頼ることも重要です。審査官との対話を通じて、相手の考えを汲み取る柔軟性、評価を受ける側としての謙虚な姿勢が大切だと身に沁みて感じるようになりました。

中堅・若手にとっても十分に魅力ある職場



化学部門 有機化学・化学応用グループ
T.T.

(2023年1月入団／化学メーカー出身)

30代半ばでの転職

化学メーカーでの研究を通じ、情報の検索・抽出に自身の適性を感じて30代で転職を決めました。ブログで特許文献検索の仕事を知り「探し求めている仕事」だと確信しました。実務を疑似体験できる工夫された面接で、自身の経験が活かされると手応えを得たことが入団の決め手です。未経験への不安もありましたが、一刻も早い挑戦を選びました。

日々スキルアップの実感

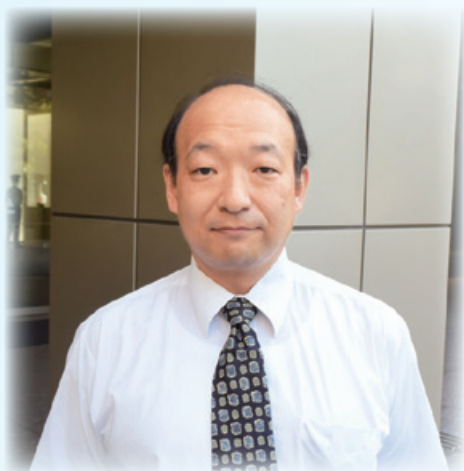
入団後、約2ヶ月間の手厚い育成研修で、未経験からでも実践的な基礎スキルを習得できました。特許検索は奥深く、すぐに習熟するのは容易ではありませんが、現在は3年目となり、管理職や特許審査官からの熱心な指導を通じて、専門技術と検索スキルの向上を日々実感しています。大学や前職で培った研究、文献調査、プレゼンの経験が大きな強みとなっており、過去のキャリアを最大限に活かしながら成長を続けています。

中堅・若手にとっても魅力ある職場環境

シニアから若手まで働きやすい環境です。良好なオフィス設備で業務に集中でき、個人単位の仕事のため自分のペースで進められます。評価や収入も成果に連動し、頑張りが反映される仕組みです。フレックスタイム制や在宅勤務も活用でき、育児との両立も図れています。ここで磨ける技術的専門性と検索スキルは、将来のキャリアの選択肢を広げる武器になると確信しており、探し求めている仕事で充実した日々を送っています。



前職での知識経験が活かせる実務でさらに能力アップ



機械B部門 医療機器グループ

K.Y.

(2015年10月入団／大学等出身)

30～40代からの転職活動

IPCCでは、大学や研究機関での知識・経験に基づいて、年齢の問題は無く採用されました。専門としていたバイオ技術の分野ではなく医療機器分野での採用となり、最初は戸惑いましたが、特許文献は基本的には論理的に記載されているので、毎日のように読んでいると確実に経験値が増えます。上司や同僚は、特許法の知識や機器開発の経験豊富な方ばかりなので、もし分からない技術があっても快く教えてもらえます。

研究職出身で生かせる経験

大学・研究所の発表では、研究テーマの動機付け・実験手法・結果・考察といった流れで論理的にかつ分かり易く他人に伝えることが必要ですが、特許庁の審査官に文献を説明する際に、この経験は大いに役立っています。また、審査官の質問の中身を理解し、適切に回答するのも、学会発表における質疑応答の経験が役立つと思います。



IPCCの魅力

こんな技術があるのではないかと予想を立てて調査を行い、想定した通りの文献、あるいはそれ以上の文献が見つかった時は達成感があります。また、転勤も無く、70代まで勤められるのも魅力と言えます。検索業務は、高い集中力を必要とするので大変ではあるのですが、30代、40代の研究者の新たな挑戦先としては、IPCCは魅力的な職場ではないかと思います。

知財未経験の不安も解消ポスドクから転身



化学部門 生命工学・医療・食品グループ

Y.Y.

(2014年10月入団／公的研究機関等出身)

研究員の経験が活かせる職場

公的研究機関と博士課程を経て、キャリア支援プログラムで紹介されたIPCC（工業所有権協力センター）へ転職しました。応募要件の「4年以上の科学技術業務」には大学院の期間も算入されるため、知財未経験ながら実務体験型の面接を経て入団を決めました。

実務では、技術の原理を理解しながら研究を進めてきたことや、論文購読で培った英語力など、研究員時代の経験が専門外の調査にも非常に役立っています。IPCCは研究経験を活かせる貴重な職場です。研究以外の道を探す際、これまでの経験が活かせる転職先があることを知っていただけだと思います。

新たな技術、人との出会い

専門技術者は担当分野が幅広く、仕事を通じて多様な技術に出会えるため、知的好奇心が尽きることがありません。IPCCにはあらゆる分野の一流スペシャリストが揃っており、フレンドリーな先輩方にいつでも相談できる環境があるため、専門外の難しい技術でも安心して取り組みます。



また、個人作業が中心で自分のリズムを保ちやすく、在宅勤務も可能なため、研究者時代に比べて生活の自由度が高い点も魅力です。私生活では合唱や太極拳同好会を楽しみ、多様な人との交流で人生経験を深めています。IPCCへの入団は、技術と人の両面で豊かな出会いをもたらしてくれました。

主席部員から副主幹・主幹へ



機械A部門 分析診断グループ

Y.K.

(2008年7月入団 / 精密機器メーカー出身)

41歳で入団して

前職のメーカーで特許の仕事に興味を惹かれたことがきっかけで、入団しました。入団当時、周囲の先輩方に比べて比較的若く、経験も浅かったこともあり、経験豊富な先輩方にとっても親身に世話を焼いてもらい、自分の成長をアシストしていただきました。また、仕事では特許庁の審査官がカウンターパートとなりますが、同世代の方が比較的多く、話が合い仕事が進めやすい面もありました。十数年にわたりIPCCで仕事を続けていますが、知財業界が世の中の動きとともに目まぐるしく変化するのを実感してきました。この間、技術のみならず、仕事の進め方や職場の雰囲気も時代とともに変わりましたが、少しでも早いうちから新しいことに挑戦したことは結果的に良かったですし、常にチャレンジができる環境は、自分にとってやりがいのある職場だと感じています。

主席部員からステップアップ

主席部員を約8年経験して管理職登用の話がありました。検索業務が性に合っていたので、管理職になるのは悩みました。しかし、一般企業の管理職とは異なり、「主席部員のサポート役」であるIPCCの管理職は、自分に向いているのではないかと考え直して副主幹となりました。

現在は、主幹として、引き続き主席部員のサポートをしながら、主席部員にとって働きやすい職場を目指して仕事に取り組んでいます。

知財挑戦者には働きやすい

知財が好きで、文章や法律に抵抗がなければ、知財に挑戦しやすい仕事だと思います。IPCCでは法定研修の修了に向けて、入団前から手厚いサポートがあるため、安心感があります。また業務に慣れてきたら、別の技術区分の資格取得もできるので、意欲次第で新たな技術分野への挑戦も可能です。待遇面では、給与体系に透明性があり、業務量の選択もできます。専門的なスキルを身につけて、多くの業務量をこなせるようになれば、それに応じて収入を増やすことができるのも魅力だと思います。



採用までの流れ

どなたでも直接応募可能です。
会社等の推薦や紹介等は特に必要ありません。

応募（事前相談も可）

※既に調査業務実施者の資格を所持している方も応募可能です。

- ホームページの応募フォームから申し込み(随時受付)

書類審査

- ◆資格要件(学歴、科学技術経験年数)のチェック
- ◆技術的経歴等のチェック(募集技術分野とのマッチング)

一般面接（WEB）

- ◆これまでの技術経験や、志望動機等についてお話を聞かせていただきます。

技術面接（WEB）

- 応募者が担当予定技術分野の特許公報(ホームページの募集技術分野一覧参照)に記載の発明内容について説明
- ・技術的理解力(発明のポイント把握能力も含む)の評価
- ・説明能力の評価
- ・コミュニケーション能力の評価
- ◆英語文献読解力の確認

サーチ結果報告面接と役員面接（対面）※原則同日に実施

【サーチ結果報告面接】

- 上記特許公報について先行技術調査の結果の説明(主席部員業務の体験)
- ・業務への適性確認

【役員面接】

- IPCCでの業務の認識度、意欲の確認等

採用内定 → 入団

- ・入団時期は原則4月、7月、10月、1月です。 ※採用内定は遅くても入団日の1か月前までに決定

約1週間後

約1～2週間後

約2～4週間後

よくある質問

Q 入団希望時期の何か月前までに応募すれば良いですか

応募から内定まで2～3か月程度の期間を要しますので、できる限り
入団希望時期の約4か月前までにご応募ください。(例：入団希望が7月であれば、
同年2月下旬まで)

※既に育成研修の技術区分を修了済みの方や特許庁審査官経験者の方はこの限りでは
ありません。

Q 実務能力を確認する面接で注目されるポイントは どのような点ですか

技術理解力、説明能力、コミュニケーション能力です。

Q 知財経験がないので、育成研修を無事に修了できるのか不安です

IPCCでは、豊富な実績に基づいて構築した手厚い指導体制により
サポートを受けられますので、知財経験がなくても心配無用です。

Q 主にシニア世代を採用しているようですが、 ミドル世代でも採用されますか

シニア世代に限らずミドル世代も積極的に採用しています。
日々の業務を通じて専門性を磨き、自己の成長を長期的に図ることができますので、
ミドル世代の専門技術者にとってもやりがいのある仕事です。
さらに、管理職(主幹・副主幹)に登用される道もあります。

Q 研究機関の研究者です。専門技術者として活躍できますか

専門技術者は自身の専門知識をベースに、色々な案件について調査を進めながら、
日々新たな知識を吸収し、対応できる範囲を拡大して業務を進めています。
基本となる専門技術知識と前向きな意欲があれば、十分活躍できます。

※その他のよくある質問は、
ホームページまたはQRコードからもご覧いただけます。→



さーち子さん※

◆ お問い合わせ先 ◆

一般財団法人 工業所有権協力センター (IPCC)

人材開発センター 開発部 採用課

ホームページ：https://www.ipcc.or.jp

TEL：03-6665-7852 FAX：03-6665-7886

E-mail：ipcc-jin@ipcc.or.jp

募集に関する詳細は、HPまたは、QRコードからもご覧いただけます。→



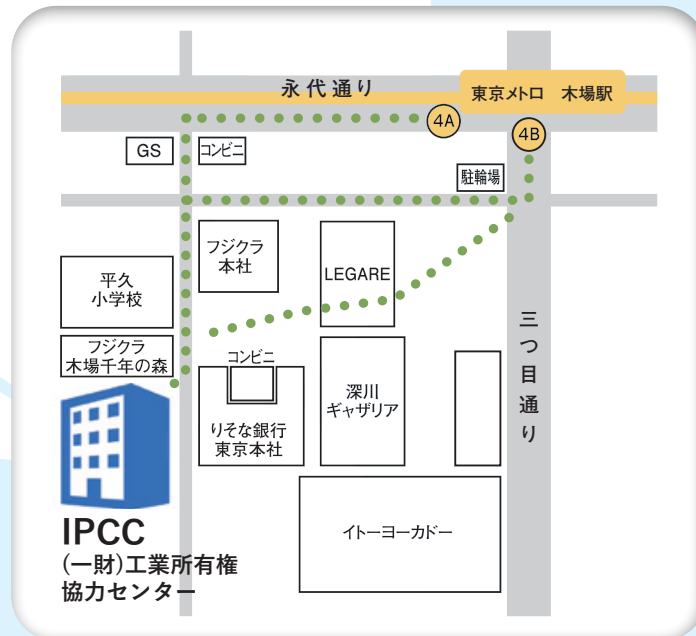
つけつけ君※



※IPCC業務システムのキャラクター

■ アクセス

本部



東京メトロ東西線「木場駅」4番出口から徒歩約5分
〒135-0042
東京都江東区木場1-2-15 深川ギャザリア ウエスト3棟

大阪分室



JR大阪駅 北新地駅、大阪メトロ 梅田駅、淀屋橋駅、
東梅田駅、西梅田駅から徒歩圏内
京阪中之島駅「大江橋駅」4番出口から徒歩2分
〒530-0004
大阪府大阪市北区堂島浜1丁目2-1 新ダイビル24階

